

## はじめに

本県では、令和3年2月に策定した「あいち生物多様性戦略2030」に基づき、開発などで分断・孤立した生き物の生息生育空間を緑地などでつないで、豊かな生物多様性をもった地域を作り上げる「生態系ネットワーク形成」の取組を推進しています。

NPO や企業、大学や行政などの様々な団体が参加して県内9地域で設置されている生態系ネットワーク協議会では、その地域に根ざした在来種の植物の保護・育成や、動物の生息に適した環境の維持・整備、外来種の駆除、新たな生息生育空間の創出など、様々な生物多様性保全の活動を進めています。

しかし、その取組の成果はなかなか見えにくく、生態系ネットワークが形成されているかどうか分からない、という声もあります。

そこで、生き物の生息生育状況を、それぞれの活動場所等で調査し、その結果を県全域で共有することで現状を把握し、「自然環境の変化」や「生物多様性保全の活動成果」を認識できるようにするため、生態系の状態やネットワーク形成状況の指標（ものさし）となる生き物の種（以下「指標種」という。）を選定しました。（今回の指標種は、主として都市から里山にかけて生息生育する動植物を選んでいきます。）

この指標種に着目したモニタリングをきっかけに、一般県民の方々にも、県内の自然に目を向けていただくきっかけになればと考えています。

「人と自然が共生するあいち」の実現を目指し、県民の皆さまの御協力を得ながら、生物多様性モニタリングを円滑に行うため、本書を作成しましたので、積極的に御活用いただければ幸いです。

最後に、本ハンドブックの作成に御協力いただいた関係者の方々に深くお礼申し上げます。

令和6年3月 愛知県環境局環境政策部自然環境課

## 目 次

1. 調査の概要	1
2. 選定した指標種一覧	2
3. 調査テーマ及び各種の解説	4
① 身近な哺乳類	5
② 身近な野鳥	9
③ 池や水路のカメ	20
④ 身近なカエル	25
⑤ トカゲ・ヤモリ・イモリ	35
⑥ 川や池の魚たち	39
⑦ 林や草地の昆虫	49
⑧ 水辺のトンボ	61
⑨ タンポポ地図	69
⑩ 春の水田雑草	78
⑪ 秋の七草調査	84
⑫ 湿地の植物	96
⑬ 里山の植物	110
⑭ ニホンジカによる食害	117
⑮ 監視したい外来植物	123
4. 調査方法	132
① 観察記録のつけ方	132
② 観察記録の提出方法	133
③ 専用サイト「指標種チェッカー」の利用方法	134
5. 生き物調査に関する Q&A	140
索引	142
執筆者・作成協力者	143
コラム	
ビオトープ	8
「特定外来生物」と外来種の駆除	47
都市化の影響と外来種の影響	77
在来種緑化	95
ヒガタアシ	130